

学長の業務執行状況の確認結果について

令和4年3月16日
国立大学法人宇都宮大学学長選考会議

国立大学法人宇都宮大学学長選考会議規程第3条第1項第3号に規定する学長の業務執行状況の確認を行いましたので、その結果を公表します。

1. 確認方法について

令和3年度第3回学長選考会議(令和4年1月19日(水))において、事務局から、以下の資料に基づき説明があった後、学長から、令和3年4月から令和3年12月までの大学運営の取り組み及び今後の展開等について説明があり、次いで、学長選考会議委員との質疑応答を行った。

- ・国立大学法人評価委員会による業務の実績に関する評価結果
「令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人宇都宮大学」
- ・令和2事業年度に係る業務の実績に関する報告書
- ・学長就任時の所信表明(令和2年9月16日)
- ・監事による業務監査の実施結果報告
「令和2年度国立大学法人宇都宮大学監事監査意見(報告)書」

2. 確認結果について

別紙のとおり。

以上

国立大学法人宇都宮大学学長業績確認結果書（総表）

総合評価	評価	4 期待する程度を上回った
<p>令和3年度は、第3期中期目標・計画期間の最終年度であり、また、第4期中期目標・計画の策定年度である。その大切な年度が学長就任一年目の年に当たり、運営に難しい舵取りが求められたが、所信表明の基本的な方向性を基盤として、新たなアクションプランやその他の施策に取り組みながら、この一年間、適切に大学運営ができた。</p> <p>昨年に引き続きコロナ感染が大学運営に大きな影響を与えている中、オンライン授業との併用で3密対策を行いA日程・B日程といった新たな授業形態の導入による学生の対面活動機会の確保、学生ピアサポーター制度による新入生へのメンタルサポートの実施など、常に学生の視点を重視した対応である。</p> <p>研究支援において、間接経費の取扱い整備や学内助成、異分野融合研究の助成や強化を図ってきているが、そのアウトプットの明確化が求められる。また、地域創生科学研究科博士後期課程がスタートし、深い教養を基に高度な専門知識や技術を身につけた研究者の育成に期待が懸かる。</p> <p>県内自治体25市町との協定締結の継続と更なる連携強化や知の拠点として社会人の学び直し（リカレント教育）の場を地域社会へ提供するなど、宇都宮大学が知の拠点としての役割を担い、今後、益々充実した内容が期待される。</p> <p>新学位プログラム（データサイエンス経営学環）の創設や学部・学科改組、意思決定の流れの改変、理事業務分掌のあり方の見直し、事務部再編などの取り組みを進め、第4期中期目標・中期計画期間に向けて大きな成果を期待する。</p>		

項目別評価〔教育〕	評価	4 期待する程度を上回った
<p>コロナ禍により入学式が実施できず入学直後からオンライン授業を余儀なくされた令和2年度の入学者を対象とした懇談会の開催（延べ290名参加）、学長・副学長等による学生・保護者とのガイダンス・相談会の地方開催、オンライン授業との併用で3密対策を行いA日程・B日程といった新たな授業形態の導入による学生の対面活動機会の確保、学生ピアサポーター制度による新入生へのメンタルサポートの実施など、常に学生の視点を重視しつつ対応している点は評価できる。</p> <p>また、宇大スタンダードや全学ディプロマポリシーの設定、学内Wi-Fi環境の整備、高大接続フォーラムや受験生保護者向けのメッセージ動画配信など教育プログラムの支援・教育環境整備等の取り組みにおいても評価できる。なお、学生たちの心身の健全な成長をサポートするためのより踏み込んだwithコロナ運営などの取り組みに期待する。</p> <p>新学位プログラム（データサイエンス経営学環）の創設や文理融合型数理データサイエ</p>		

ンス教育プログラムの取り組みは、地域のニーズを満たし、地域貢献への期待が高まる。また、アクティブラーニング形式の授業やプロジェクト型の演習を通して、知識と実践を融合する学びが可能となり、行動・実践教育が益々充実する。

項目別評価〔研究〕	評価	3 期待する程度であった
<p>研究支援において、間接経費の取扱い整備や異分野融合研究の助成や強化を図ってきているが、そのアウトプットの明確化が求められる。また、URAによる科研費獲得支援策や全学的な研究支援を推進したが、顕著な効果が見られないのは今後の課題である。</p> <p>研究分野において、宇都宮大学はいま何の研究をしているのか、その社会への影響度や進捗が判るとよい。</p> <p>地域創生科学研究科博士後期課程がスタートし、深い教養を基に高度な専門知識や技術を身につけた研究者の育成に期待が懸かる。</p>		

項目別評価〔社会連携・地域貢献〕	評価	4 期待する程度を上回った
<p>ステークホルダー会議の創設とその運用、県内自治体 25 市町との協定締結の継続と更なる連携強化や知の拠点として社会人の学び直し（リカレント教育）の場を地域社会へ提供し、宇大未来塾やUUカレッジは、若者からシニア層までの社会人を対象とした良き学びの場であり、宇都宮大学が知の拠点としての役割を担い、今後、益々充実した内容が期待される。また、次世代を担う地域リーダーの育成として、高大連携事業の推進や社会共創促進センターの設置などの窓口として貢献しており、メリハリの効いた地域貢献活動は評価する。</p> <p>是非、地域のシンクタンク機能を示せるように願う。また、行政とのコラボレーションは形だけとならないよう留意願う。</p>		

項目別評価〔国際交流〕	評価	3 期待する程度であった
<p>コロナ禍という中で、国際交流を積極的に進めることが難しい状況ではあるが、科学技術振興機構（JST）の「グローバルサイエンスキャンパス」事業は、グローバルに活躍できる科学技術人材を育成することを目的として理数教育プログラムを開発しながら実施し、成果を挙げている。基盤教育英語プログラム（EPUU）では、グローバル人材に必須な英語教育に力を入れ、TOEIC スコアなどは上昇傾向にある。</p> <p>学生・院生のオンラインでの学会や外国語研修等への参加促進、留学生へのケアや国際交流関係の維持に取り組んだ。なお、世界共通の言語は英語であり、今後、英語圏での協定校を増やす展望を持ちたい。</p> <p>また、国境を越えたネットワークの形成や国外の大学との教育プログラムの共同開発など、今後の活性化に期待する。</p>		

項目別評価〔大学運営〕	評価	4 期待する程度を上回った
<p>新学位プログラム（データサイエンス経営学環）の創設や学部・学科改組，意思決定の流れの改変，理事業務分掌のあり方の見直し，事務局再編などの取り組みを進め，第4期中期目標・中期計画期間に向けて大きな成果が期待できるが，新組織の稼働に伴い生じがちな教職員のマンパワーの偏りについては十分に留意願う。</p> <p>地域活性化のエンジンとして，また，シンクタンクとして地域社会との信頼関係の構築が重要であるが，新たに「ステークホルダー会議」を発足させ，多種多彩のステークホルダーから意見を聴取し，地域のニーズを把握しながら，地域社会へ貢献していく姿勢が窺える。</p> <p>昨年に引き続きコロナ感染が大学運営に大きな影響を与えている中，感染対策として3密を避けるためA日程・B日程の新たな授業形態の導入や学生対応として“学生ピアサポート制度”などによるメンタル面での学生サポートの実施，また，新型コロナにおけるクラスターを発生させなかったということは，最も重要な学生・教育の健康を守ったことであり評価する。</p> <p>なお，所信で表明された「様々なレベルの組織において自由闊達な議論が行われる環境」に関して，積極的な取り組みが行われたとはいえない。</p>		

評価	評価内容
5	期待する程度を大幅に上回った
4	期待する程度を上回った
3	期待する程度であった
2	期待する程度を下回った
1	期待する程度を大幅に下回った